

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第19回会議 会議録

1 日 時

令和6年3月13日（水）19：00～20：00

2 場 所

函館市医師会病院5階講堂

3 出欠状況

メンバー：水越部会長，阿部副部会長，川村メンバー，川口メンバー，室田メンバー，益井メンバー，宮城メンバー，京谷メンバー，山上メンバー，齋藤メンバー
部会運営担当：（函館市医療・介護連携支援センター）佐藤，近藤，花輪
事務局：（函館市保健福祉部地域包括ケア推進課医療・介護連携担当）渡辺，根崎
オブザーバー：（ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター）眞嶋

4 議 事

○報告事項

1. 令和5年度 多職種連携研修計画 実施報告（資料1，2，3）
2. センターホームページ「コラム」の掲載について（資料1）
3. 研修情報の一元化と提供について（資料4）

○協議事項

1. 令和6年度 多職種連携研修計画（案）（資料5）

5 会議の内容

根崎医療・介護連携担当

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第19回会議を開催いたします。前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

次に，第18回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただきました。事務局の方には，特に修正のご意見がございましたので，原案どおりで，第18回会議録を確定し，市のホームページ上で公開させていただきます。

本日は，公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部 鹿角様が所用により欠席となっております。また，道南在宅ケア研究会 川口メンバー，函館地域医療連携実務者協議会 船山メンバーからは，少々遅れるとのご連絡をいただいております。

それでは，本日の資料を確認させていただきます。事前に，会議次第1枚，資料1から5

まで、裏表で合計8枚を送付しておりますが、本日、お持ちでない方はありますか。また、机の上に座席表と出席者名簿を配布させていただいております。

本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは阿部副部長、お願いします。

阿部副部長

皆さん、お疲れ様です。

それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。報告事項1、報告事項2に関して、花輪幹事から説明願います。

花輪幹事

皆様、こんばんは。幹事の花輪です。報告事項1「令和5年度 多職種連携研修計画 実施報告」につきまして、ご報告いたします。資料1をご覧ください。資料2の【令和5年度多職種連携研修計画実績表】と資料3の【第8回函館市医療・介護連携多職種研修会 分析・考察】を合わせてご覧いただければと思います。

前回の会議でご報告したものについては割愛させていただいて、部会後に実施したものについてだけ、ご報告させていただきます。

(1) 相互理解の促進

①オープンカンファレンスですが、令和5年11月29日水曜日に開催いたしました。共催は市立函館病院、開催場所は市立函館病院2階講堂で行っております。内容は市立函館病院の血液内科にかかっていた患者さんの事例（患者への意思決定支援の関わり、訪問診療から施設での看取りまで）で、進行役は函館稜北病院 副院長 川口 篤也先生、登壇者は症例に関わった医療・介護の多職種の方々にお越し、118名の方にご参加いただきました。

②研修会等コーディネートは、報告済みのため割愛いたします。

(2) 連携強化

①看取り

(ア)、(イ)につきましては、前回の部会で報告済みのため、割愛させていただきます。

②看取り&連携強化

第8回函館市医療・介護連携多職種研修会ですが、令和5年10月21日土曜日に開催いたしました。テーマは「『点から線につながろう』～本人の想いを聞いてますか？連携による地域の変化と今後の課題～」で、座長は川口先生、シンポジストは市立函館病院 救命救急センター センター長 武山 佳洋先生、函館五稜郭病院 地域連携・PFMセンター 看護師主任 井上 美佳様、小規模多機能ホーム らしさ七重浜 ホーム長 波並 孝様にお越し、176名の方にご参加いただきました。

③入退院支援

(ア) 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）

令和5年11月17日金曜日に開催いたしました。場所は函館市医師会病院5階講堂で、テーマは「関わっているその人のイメージ、ズレているかも？～病院・在宅・施設間のズ

れないイメージの情報共有とは～」です。発表者は、北海道MSW協会南支部 医療相談員 岩城 朋美様で、44名の方にご参加いただきました。

(イ) 入退院支援連携強化研修会

サマリー編となっておりますが、情報共有ツール作業部会では今年度ID-Linkの活用推進を中心に研修を行うこととなりました。そのため、今年度の研修はID-Linkの内容での企画となっております。

一つ目は、函館市医師会 在宅医療医会 第1回研修会です。共催は道南Medikaと函館市医療・介護連携推進協議会(情報共有ツール作業部会)で、令和5年9月29日金曜日に開催いたしました。場所は函館中央病院 南棟8階講堂で、テーマは「かかりつけ医の行う在宅医療 ～ICTの活用と多職種連携～」でした。座長は川口先生、講師は北美原クリニック 岡田 晋吾先生にお願いし、86名の方にご参加いただきました。

次に、令和5年度 函館市医療・介護連携ID-Link活用推進研修会についてです。共催は道南Medikaと函館市医療・介護連携推進協議会(情報共有ツール作業部会)で、令和5年12月2日土曜日に開催いたしました。場所は函館市民会館大会議室で、内容は、川口先生に「当院でのID-Linkの活用と今後の展望について」をテーマにご講演いただき、活用実践発表では医療関係者から「施設とのID-Link連携について」を、高橋病院 訪問診療室 室長 山田 佳世様に、介護関係者から「在宅支援チーム内でのID-Link連携について」を、訪問看護ステーションフレンズ 統括所長 保坂 明美様からお話ししていただき、76名の方にご参加いただきました。

④急変時対応

令和5年急変時対応研修会は、令和6年2月7日水曜日に開催いたしました。場所は競輪場テレシアターで、テーマは「救急医療・救急搬送の現状について」です。座長は函館中央病院 事務次長 亀谷 博志様、パネリストは市立函館病院 救命救急センター センター長 武山 佳洋先生、函館市消防本部 救急課救急係 係長 市川 浩二様にお願いをし、202名の方にご参加いただきました。

(3) 多職種連携の専門性の向上

令和5年6月29日、令和6年1月18日に在宅歯科医療連携室との意見交換会を実施しております。

また、令和5年9月21日に開催された、函館市医師会病院地域医療支援病院講演会において、センターの取組についてお話ししております。

(4) 人材育成 センター主催研修会への見学参加

こちらは、各医療・介護系の学校に対して、センター主催研修会の案内をその都度配布しております。令和5年度は、センター主催研修会への見学参加はありませんでしたが、令和4年度は、医療関係者向け研修会に鍼灸マッサージの教員1名、急変時対応研修会に視力障害支援センターの教員1名に参加いただいております。この年はコロナ禍であったため、動画研修を実施しておりました。動画研修であったため、視聴期間中に、自宅や授業の合間など、時間があるときに観ることができるほか、感染リスクが抑えられるというメリットがあったと思われれます。今年度は集合開催で研修を行っており、教員や学生の方の参加がなかったのは、日程の都合がつかなくなかったり、感染リスクから、多数の方が参加される研修会への参加を控えていたことが予想されます。しかし、現場でご活躍の医療・介護関係者には、顔

の見える関係性の構築のためにも、集合での開催も大切と考えておりますので、今後も集合開催を中心に企画してまいりたいと思います。教員や学生の方にも、研修会へ参加できる際には、参加していただければと思っておりますので、各学校への案内配布は次年度も継続していこうと思っております。

次に、報告事項2「センターホームページ『コラム』の掲載について」を報告いたします。センターホームページ「コラム」の掲載についてですが、今年度から医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能というテーマで、2～3ヶ月毎に掲載しております。

第1回目は、7月25日に本部会部会長である株式会社函館調剤薬局 執行役員薬剤部長 水越 英通様の「調剤薬局」のコラムを掲載しております。

第2回目は、SOMP Oケア株式会社 北海道第4事業部 部長 五十嵐 常泰様の「訪問入浴について」のコラムを10月16日に掲載しております。

第3回目は、社会福祉法人敬聖会 特別養護老人ホーム 桔梗みのりの里 施設長 佐藤 大典様の「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）について」のコラムを12月22日に掲載しております。

第4回目は、訪問介護ステーション輪 管理者 酒井 雅子様「訪問介護について」のコラムを令和6年2月5日に掲載しております。

令和5年7月掲載後から令和6年2月までの閲覧件数は計137件となっております。次年度も医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能というテーマでコラムを継続していく予定としております。

報告事項1「令和5年度 多職種連携研修計画 実施報告」、報告事項2「センターホームページ『コラム』の掲載について」の報告は以上でございます。

阿部副部長

それでは、報告事項1、報告事項2に関して、皆様からご発言をいただきたいと思っております。ご質問、ご意見等はございませんか

京谷メンバー

包括支援センターの京谷です。研修会の看取りと連携強化という部分の、10月21日の研修会ですが、看取りというテーマだとどうしても、介護度が低い方を担当している方や終末期に関わりが少ない職種の方が少し遠く感じるものが今まであったと思うのですが、今回のこの研修会に参加させていただいて、今までとは異なる救急の武山先生がシンポジストだった効果もあったのか、様々な分野のシンポジストの方のお話しも、聞いていてずっと入りやすく、自分の業務に当てはめたときに、どういう風に繋げていけるだろうかということを考えることができ、日常的には看取りと直接の関係が少なくても、とても参考になるような、効果的な研修だったと感じて、すごくよかったなと思えました。

次のページの、12月2日に市民会館で開催された、令和5年度のID-Link活用推進研修会ですが、こちららどうしても、ID-Linkを使っている方々をまだ少し遠いなと思われる方々もいると思うのですが、この研修会ではID-Linkの利用のイメージがすごくつきやすいというか、包括もまだ利用している立場ではないですが、利用が身近に感じられて敷居が下がるような研修会でした。研修会もざっくばらんに参加でき、ID-Li

n kについて、「身近にある簡単なものかも」と感じられるような内容の研修会だったので、参加してよかったと思います。以上です。

阿部副部長

ありがとうございます。その他、ご質問やご意見等はございませんでしょうか。(なし)
報告事項1, 報告事項2に関しては以上で終了し、次の議事に進めてよろしいでしょうか。
それでは、報告事項3を幹事から説明願います。

花輪幹事

報告事項3「研修情報一元化と提供について」をご説明いたします。資料4をご覧ください。

令和5年4月から令和6年2月までに掲載した地域の研修情報は合計27件でした。その他として、函館市医療・介護連携支援センター主催研修会が3件、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催研修会が2件、各団体との共催研修会が3件、函館市医療・介護連携支援センター、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催研修会が3件となっております。

ここ数年、コロナ禍により掲載件数が激減しておりましたが、令和4年度より徐々に件数が増えてきております。各団体等においても、活発に研修会が開催されるようになったことが伺える掲載件数となりました。引き続き、研修の情報がありましたら、情報提供にご協力いただけますと幸いです。報告事項3のご報告は以上でございます。

阿部副部長

それでは、報告事項3に関して、皆様からご発言をいただきたいと思っております。ご質問、ご意見等はございませんか。

齋藤メンバー

道南老施協会の齋藤です。道南老施協の場合、研修会は老施協の会員でなければ参加できないため、いつもこちらに報告をし忘れておりました。来週も研修会があるので、後ほどメールで連絡します。久しぶりに道南老施協でも、コロナ前から数えて4年ぶりに集合研修をやるのですが、なかなか参加者が来ないですね。研修会を開催された他の団体の方に、参加率について聞いてみたいです。コロナ前の人数が集まっているのか、それとも衰退しているのか、集合研修を開催しなくっているのかなど気になっているところでした。今すぐ確認するという問題ではなく、意見として言わせていただきました。以上です。

阿部副部長

ありがとうございます。今のご意見ですが、皆様のそれぞれの団体ではいかがでしょうか。

水越部長

薬剤師会の水越です。その研修は、ウェブとハイブリットでやる形ではなく、完全に集合だけの研修ですか。

齋藤メンバー

集合だけでの開催です。

水越部会長

薬剤師会の場合は、1年前からウェブでの開催が基本的です。

齋藤メンバー

集合はなしですか。

水越部会長

今はウェブの方がメインとなっていますが、場合によってはハイブリットもあります。なぜかという、ウェブの方の出席率が圧倒的にいいからです。薬剤師会では、研修が認定薬剤師制度にも関わってくる場合もあるので、認定がとれないと施設基準がとれないため、必然的に出席してもらわないと困るシステムになっています。基本がウェブですので、正直助かっていて、業務上開催時刻に遅れてしまうこともあるのですが、ウェブだと最初から受けることができるので、今は完全にウェブ開催にして出席人数を確保しています。

阿部副部会長

ありがとうございます。その他の団体の方はどうですか。

室田メンバー

柔道整復師会の室田です。引き継ぎがうまくいっておらず、よくわかっていないため、どのような研修会をどのような形で報告しているのか教えていただきたいです。

阿部副部会長

事務局からお願いいたします。

佐藤幹事

医療・介護連携支援センターの佐藤です。ご質問ありがとうございます。

こちらは、当センターのホームページにおいて、各団体の研修会のご案内を掲載できるようにしているものです。

室田メンバー

会員だけの研修会も報告したほうがいいですか。

佐藤幹事

目的が二つありまして、一つ目が周知すること自体を目的としています。もう一つが、研修会を企画する際に、他の団体の研修会と重ならないように、センターホームページ上のカレンダーを見ながら予定を組んでもらうことを目的としています。

柔道整復師の方の皆さんに参加してもらいたいと思うような研修があるようでしたら、他の団体の研修会を避けて企画をするといった形で使ってもらえればとお願いしておりました。センターへの報告は必須ではありませんが、何か思い出した時には、センターの方にお知らせしていただければと思います。

室田メンバー

メールで日時やどういった内容でやるのかを知らせばよいのですか。

佐藤幹事

そうですね。チラシなどもあればいいですし、滅多にないかと思いますが、広く色々な職種の方に参集を依頼する際は、載せてほしい内容の文章も送っていただければ、その文章をホームページに掲載していこうと思います。

室田メンバー

わかりました。ありがとうございます。

京谷メンバー

センターのホームページを見た時に、包括にきていない案内が掲載されていたこともあって、例えば1月の三団体合同研修会などは、包括としては案内をいただいていたものでしたが、センターのホームページを見て、参加させていただいた職員もいました。自分たちの手の届かない情報を把握できて、とても効果的だと思いますし、実際に活用させていただいています。

3月9日に、函館市社会福祉協議会とNHKの合同企画で「認知症とともに生きるまちへ！」というテーマの研修会がありまして、NHKの知り合いからは、「参加者が集まらず、各施設に声をかけ続けてようやく集まった経緯があった」と、研修が終わってから話を聞きました。今、関係機関に情報を出し合ってもらっていると思いますが、次年度は関係のあるような内容の研修を開催している社会福祉協議会や報道関係にもホームページの活用の仕方の周知をかけることで、また違った種類の、効果的な研修会の情報が集まるかと思ったので、呼びかける関係機関を今一度見直してみるのも一つかと思いました。以上です。

佐藤幹事

ご提案ありがとうございます。センターでは部会に参加していただいている団体だけではなく、関係団体一覧というものを作っておりまして、参加されている団体以外、例えば理学療法士会であったり、ヘルパー連協であったり、そういった団体が入っている一覧を作っているのですが、一覧に入られている団体に対しては、毎年掲載があればお知らせくださいとメールでご案内をさせていただいているところでした。ただ、メールでのご案内だけでは足りないのかとも思いますので、例えばチラシを添えてお配りしていくことや、何かの折にお声掛けをしていくなど、何かアプローチ方法を考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

阿部副部長

ありがとうございます。各団体の研修会の開催方法も、様々なやり方があるのかと思っております。また、研修情報一覧をどのように活用するのかということについても、発信の方法と受け取り方法を工夫するということになるかと思えます。他にご意見等はございませんでしょうか。

山上メンバー

函館市訪問リハビリテーション連絡協議会の山上です。僕も申し込みをしそびれていた者なので大変恐縮ですが、各団体から送られてきた研修情報のチラシを見て、センターの方で掲載してくれると言っていたので、掲載してほしい文章みたいなものを作って送ったら、掲載するセンターは楽になるのではないかと思います。

佐藤幹事

過去のお話で大変申し訳ないのですが、この事業をスタートした当初は、掲載してほしい内容を記載するフォームを作っていました。ただ、それも逆にお手間かと思ひ、今はチラシを送っていただく形で済ませております。

確かにフォームがあった方が書きやすいという方もいるかと思ひますので、もう一度フォームの中身を見直しつつ、ご案内してみたいと思ひます。先ほどお話したように、各団体にメールで周知させていただく際には、フォームも併せて送れるようにしていきたいと思ひます。ありがとうございます。

阿部副部長

ありがとうございます。他にご意見等はありませんか。(なし)

では、報告事項3に関しては以上で終了し、次の議事に進めていきます。続きまして、協議事項1について、幹事から説明願ひます。

花輪幹事

協議事項1「令和6年度 多職種連携研修計画(案)」についてご説明いたします。資料5をご覧ください。

(1) 相互理解の促進

①医療・介護関係者向け研修について

a. 医療関係者向け研修についてです。目標は、「退院後のご本人がどういった環境でどのような生活をしているかを知ること、退院後の生活のイメージを深めることができる」、「イメージを深めることで、病院での受け入れ時の対応や情報整理、退院調整時の連携力の向上となる」です。テーマは「仮)退院後、施設でどういった生活をしているか知っていますか?」で、講師は介護老人福祉施設または有料老人ホームの看護師か相談員に依頼予定です。研修時間は1時間で、内容は「施設の紹介」、「施設でできるケアについて」、「退院時の情報共有の必要性について」、「施設の困りごとや事情について」、「事例紹介」です。これらは、軽度の利用者と重度の利用者の事例報告をしていただく予定としており、「医療・介護連携マップについて」や「各施設種別の紹介」の説明も行えればと考えております。開催方

法は集合開催で、キャラバン方式で、全3回の実施を予定しております。1, 2回目は、函館市内の病院, 3回目は函館市医師会病院で行います。開始時間は、1, 2回目は開催場所となる病院の職員が参加しやすい時間で17:30から18:30を予定、3回目の函館市医師会病院での開催は、各医療機関の皆さんが業務を終えてから参加していただけるようにと考えており、18:30から19:30で予定しております。開催時期は、医療関係者向け研修およびこの後ご説明する介護関係者向け研修共に、5月、8月、年明けの2月を予定しております。

b. 介護関係者向け研修についてです。目標は、「介護関係者に、医療機関の病床機能やこの先の医療政策の展開を理解してもらうことで、適切な連携につなげることができる」、「病院の中で行われている入退院支援の流れや現在の病院での困りごとを知ることで、どのような連携が必要かを理解できる」です。テーマは「仮）急性期病院の事情について～思いやりのある連携～」で、講師は急性期病院の医療相談員に依頼を予定しております。内容は「急性期病院の機能と役割」、「地域医療支援病院、紹介受診重点医療機関としての機能と役割」、「入退院時の連携について」、「急性期病院の困りごとや事情について」としております。開催方法は集合開催で、開催場所は同じ会場を使用し、計3回の実施を予定しております。

②オープンカンファレンスについては、この先、川口先生およびオープンカンファレンス開催のコアメンバーの皆さんと相談しながら、開催を検討していきたいと考えております。

③研修会等コーディネートについては、医療・介護各関係団体窓口一覧の更新のため、その確認書類を例年通り6月頃に各団体に配布し、情報の更新をしていく予定でおります。

(2) 連携強化

①第9回函館市医療・介護連携多職種研修会ですが、日時は令和6年10月19日土曜日14:00から17:00で予定しております。ほくと・ななえ医療・介護連携支援センターとの共催で、場所は函館国際ホテルです。研修の形態は、講演、ロールプレイ、グループワークとしており、「その方らしい生き方を実現していくため、加齢や疾病による影響から心身の状態が変化していく本人の不安や葛藤などに寄り添い、もしもの時に本人の思いを見逃さないように支援に関わる一人ひとりが意識していけること」を目的としております。目標は「もしもの時のために患者、利用者の思いをどのようなタイミングでどのような方法で行うのかを理解する」、「もしもノートを活用しながらACPを行う際の留意点などを知る」、「本人の思いを叶える支援の実現を目指し、医療・介護関係者が情報共有していく必要性を考える」としております。テーマは「仮）地域でつなげようACPの輪～この地域でのACP連携を目指して～」と考えております。

ACPを行っていく上でのツールとして、情報共有ツール作業部会で作成した、「もしもノートはこだて」というものを、令和5年12月9日に当センターのホームページ上で公開しております。この「もしもノートはこだて」は、自分で自分のことを決められなくなる「もしも」の時に備えて、あらかじめ本人の思いやその時に望む医療・ケアについて、ご家族や信頼している方、支援者に伝え、相談するためのノートです。本研修でこのツールを知り、実際に活用等を体験することで、本人の思いを叶えるための支援をどうするとよいのかを、皆で考えることができるのではないかと考えました。

研修の内容としては、「『もしもノート』について（概論）」、「『もしもノート』ができるまで（経緯、経過等）」、「サマリーと併せた活用法・事例」についての講演を行った後、ロー

ルプレイとして、「もしもノート」を使いながら聞き取りの実践をしていただき、支援者役と利用者役を体験していただく予定としております。グループワークでは、「もしもノート」の聞き取り実践後における意見交換を行いながら、支援の実現を目指して、医療・介護関係者が情報共有していく必要性を話し合うことができると考えております。

座長・講師ですが、座長は現在打診中で、講師につきましては、「もしもノート」を活用することから、情報共有ツール作業部会のコアメンバーの皆さんに依頼する予定としております。また、今回の研修会は、情報共有ツール作業部会と共催という形で開催を考えております。

この研修案としたのは、資料3の今年度の第8回医療・介護連携多職種研修会のアンケートを集計した分析・考察から、今後希望する研修についての意見として、「多職種連携の具体例について知りたい」といった内容が多くありましたが、その他に「看取りやACPに関わる事例などを学びたい」といったご意見もあり、日々の業務の中で、そのような場面に遭遇する頻度が増えていることも関係していると思われまます。このことから、ACPへの関心が強まっていると考えられるため、次年度はACPに焦点を当てたテーマで、事例などを含めた講演、多職種でのグループワークや意見交換を行い、多職種の連携や強化が図られる内容が求められていると考えたため、この内容としております。

②入退院支援

入退院支援連携強化研修会（ガイド編）は、退院支援分科会と協働して、開催を検討していく予定でおります。

入退院支援連携強化研修会（サマリー編）は、先程令和6年度多職種連携研修計画でお話をさせていただきましたが、第9回函館市医療・介護連携多職種研修会にて情報共有ツール作業部会と協働して開催を予定しております。

③急変時対応

急変時対応については、実務者との協議により、検討していく予定です。

(3) 多職種連携の専門性の向上および(4)人材育成につきましては、引き続き、出張講座の実施や研修案内の配信を進めていきます。

長くなりましたが、協議事項1「令和6年度 多職種連携研修計画（案）」の説明は以上です。「令和6年度 多職種連携研修計画（案）」についてご意見、ご協議いただければと思います。

阿部副部長

花輪幹事、説明ありがとうございます。

協議事項1「令和6年度 多職種連携研修計画（案）」について、皆様からご発言をいただきたいと思っております。

ご質問、ご意見はございませんでしょうか。

京谷メンバー

包括の京谷です。bの介護関係者向け研修の目標に、「現在の病院での困りごとを知ることで、どのような連携が必要かを理解できる」とあり、よく在宅の方からは、「病院は在宅の大変さをわかっていない」と言われることがよくあるのですが、逆に在宅の人たちが、患

者さんが入院した後、病院の方々がどんなところで苦勞されているかですとか、支障がでるかというところをリアルに勉強できるというのはすごく大事だと感じています。このテーマを見て、また参加させてもらいたいなと思わせてくれる、ありがたいテーマだと思いました。

一つ質問なのですが、医療関係者向け研修を集合でキャラバン方式で開催するというところで、会場の候補が函脳外と日赤になっているのですが、候補に挙げた理由をお聞きできればと思います。以前急性期病院を回った際、当番の会場となった病院の職員の参加率がちょっと高かったことを思い出して、このキャラバン方式はすごく効果的だなと感じているのですが、今回この二つの病院を候補に挙げている理由があれば、教えてもらえればと思います。

阿部副部長

ありがとうございます。では、事務局からお願いします。

佐藤幹事

ありがとうございます。よく覚えていてくださいました。コロナ前ですね。京谷さんにもご協力いただきまして、各病院を回らせていただいて、年に3回同じ講演をしていただくという形に次年度から戻したいと思っていました。先ほど京谷さんからもお話がありましたように、会場の病院のスタッフの方々が参加しやすいという効果があります。スタッフの方でも、外で開催される研修にはなかなか行けないけれど、院内での研修であれば参加しようかなというように、参加してもらえる機会になるということが、コロナ前の研修会で実感できしており、スタイルを元に戻そうと思ったのが一つです。

どうして、函脳外と日赤なのかといいますと、単純にコロナ前にキャラバン方式の研修を企画していて、次にお願ひする病院として打診していたのが、函脳外と日赤でした。その前は五病や中病、新都市などを回らせていただいたので、以前ご協力依頼をさせていただいていた二つの病院にまたお願ひしたいと思っておりました。

京谷メンバー

この二つの病院、特に函脳外は在宅でもやり取りをする頻度が高く、退院した患者さんをお受けする病院なので、本当にありがたい病院を選定していただいたなと思っています。

もう一ついいですか。

阿部副部長

はい、どうぞ。

京谷メンバー

資料5の2枚目の(2)連携強化の、10月19日の多職種連携研修会ですが、ACPがだいぶ研修会でも身近になってきていて、関心も高まっているところかなということで、すごく効果的な研修だなと思って見させていただいておりました。ただ、ACPが身近でなかったり、研修会に慣れていない人からすると、ロールプレイで実際にやってみるのが億劫だったり、ドキドキするのかなと思っていて、このスタイルでもあまり抵抗がないようなスタイルにする、例えば最初に見本を示した後、やってもらうといったような仕掛けがあると、

参加する方もリラックスして参加しやすいと思いました。

また、現在講師の方を検討中、これから選定というところではあると思いますが、やはりこのロールプレイに緊張したり、ドキドキする分、その前段階の基本的な講話、講師の先生のお話のところで、川口先生にお話をいただければ、参加する立場としてACPの敷居が下がったり、私たちでもACPを考えてもいいのだなというように、考えが和らぐと思います。特に、包括の職員はACPとは遠いので、そういう立場からすると、川口先生の前振りがあると雰囲気はよくなるので、お願いできればと思っておりました。以上です。

佐藤幹事

実はまだ資料には打診中と記載しておりますが、座長を川口先生にお願いしているところではありました。ただ、川口先生からまだ確約のお返事をいただけていなかったもので、打診中としておりました。この後ご相談をしていこうと思っていたところです。確かに川口先生に座長の立場としてお話をしてもらった方がいいのか、講演またはミニ講座などでお話をしてもらい方がいいのか、京谷さんのお話を聞いて思うところもございました。どのようにするか、川口先生にご相談できればと思っておりますが、川口先生どうでしょうか。

川口メンバー

川口です。確か承諾すると言っていた気が。確かにいきなりロールプレイとなると、結構ハードルが高い気がしていて、どこまでコミュニケーションの仕方を知ってもらうかですかとか、それを持ち帰ってほしいのであれば、前半の講演でコミュニケーションツールなどの技術をちゃんと落とし込んでからやるとかをしないと、付け焼き刃でロールプレイだけやることになるので、段取りをしっかりと考えたほうがいいかと思います。

ACPに関しては、最近色々ところで診療報酬にも絡んできたりして、なんでもACPみたいになっており、闇の部分が出てきているので、ACPは簡単なことではないことや事前に話して決めておくことはではないことを伝えていきたいなと思っております。内容に関してはこれから考えていきますし、座長の方も引き受けたいと思っております。

佐藤幹事

ありがとうございます。ご承認いただきました。内容につきましては、これから今のご意見を踏まえまして、川口先生や講師の方々とは協議していけたらと思っております。

阿部副部長

その他、皆様からご質問・ご意見があれば、齋藤メンバーをお願いします。

齋藤メンバー

道南老協の齋藤です。今のお話を聞いて、ぜひまた聴講席を作っていただければと感じました。その輪の中に入るのが怖いと言っている方もいるので、遠くからでも見せてあげたいので、また復活させてもらえればありがたいです。

阿部副部長

その他、皆様からご意見ございますか。

水越部長

今色々とお話が出ていましたが、確認ですが今回の研修の日程は10月19日土曜日ということで、基本的に第3土曜日に大規模研修を実施することに決まったのでしょうか。

佐藤幹事

そうですね。

水越部長

今後も基本は第3土曜日に大規模研修を継続して開催していくようですので、皆さんの団体に周知する上でも、研修会は第3土曜日と認識していただければと思います。

大規模研修に関してですが、この研修はやはり、物事を一つ知れるという場です。例えば、ACPという言葉を知らない方はいないと思いますが、理解している方は少ないと思いますので、まず出てもらい知ってもらおう。そして、できれば理解を深めてもらおう。大規模研修の一番の目的というのは、繋がるということだと思います。そのテーブルでたまたま一緒になった方と繋がることでもいいですし、色々な形として懇親会で繋がることもあり、すごく重要な場だと思っています。このアンケートを渡されて見たときに、このように感じてくれているのだと思い、すごく感動しましたが、最初に参加したときはこのような意見を書いている薬剤師はたぶんいなかったと思います。ですので、知ると理解するとやはり繋がるという部分で一番大事な研修の一つが大規模研修だと思っていますので、そういう中で研修の仕方、ロールプレイのあり方や聴講席を設けるとかということを検討していかなければいけないと感じました。以上です。

阿部副部長

ありがとうございます。その他、皆様の方からご質問、ご意見等はございますか。よろしいでしょうか。(なし)

協議事項1「令和6年度 多職種連携研修計画(案)」について、先ほど皆さまからお話しいただいたとおり、この内容で進めるということによりよろしいでしょうか。(異議なし)

それでは、次回の部会について、運営担当の幹事から説明願います。

花輪幹事

次回の部会は、随時、改めて日程等を各メンバーの方々にお伺いして開催しようと考えておりますので、ご了承願います。

阿部副部長

最後に、全体を通して何かご意見・ご質問等はございませんか。

佐藤幹事

皆様のお手元にお配りしております、研修のご説明の中で出ておりました「もしもノートはこだて」と、その情報を次に繋げるための情報共有ツールとして作成した、はこだて医療・介護連携サマリーの応用ツール⑱ですが、元々この応用ツールは18番まで作成しておりましたが、このACPにまつわる情報の共有に特化したシートを作りまして、現在19番まで応用ツールが増えているところです。

これまでの情報をセンターのホームページに掲載しておりまして、今日お配りしております、当日資料の両面にツールのお知らせを記載しており、「もしもノートはこだて」やツールができたお知らせのチラシとして、皆様にお配りしております。各団体の皆様にもご協力いただければと思っておりますが、必ず使ってほしいという訳ではなく、このようなツールができたことを会員の皆様に周知していただけますと大変ありがたいです。情報共有ツール作業部会のメンバーの皆様にもお願いしておりますが、部会メンバーの皆様からもお声がけしてもらえればと思いますので、よろしくお願ひします。

センターのホームページ上に、「もしもノートはこだて」のページも作っておりまして、12月から公開して1月、2月の2ヶ月間でだいたい170名くらいの方が閲覧し、ダウンロードしてくださっていることがわかっております。ぜひもっと増えていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

阿部副部長

その他ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。他になければ、全ての議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

根崎医療・介護連携担当

阿部副部長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第19回会議を終了いたします。

皆様、お疲れ様でした。